

会 議 録

会 議 名	令和4年度 第2回 川西市社会教育委員の会		
事務局	教育推進部 社会教育課（内線 4567）		
開催日時	令和4年12月21日(水)15時～16時40分		
開催場所	アステ川西5階 ルーム500(zoom によるweb 併用会議)		
出席者	委 員	野崎議長、常行副議長、上田委員、倉橋委員、金子委員 田中委員	
	そ の 他		
	事 務 局	藪内教育推進部副部長(社会教育・図書館・公民館担当) 寺田社会教育課長、木田社会教育課長補佐、 山田社会教育課副主幹	
傍聴の可否	可	傍聴者数	なし
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	別紙のとおり		
会 議 結 果	別紙のとおり		

審議経過

1. 開 会

2. 報 告

第1回社会教育委員の会以降に委員が出席された各会議について、会議概要等について報告がなされた。

報告がなされた会議

- ・「令和4年度近畿地区社会教育研究大会」（令和4年9月2日開催）
- ・「第64回全国社会教育研究大会」（令和4年10月27日～28日開催）
- ・「令和4年度兵庫県社会教育研究大会」（令和4年11月30日開催）

3. 議題について

(1) 川西市郷土館のあり方について（検討の方向性の確認）

事務局より、川西市郷土館のあり方について今後検討を進めて行くうえでの方向性の確認として、改めて次のとおり説明がなされた。

- ・「川西市郷土館」は開館以来30年以上が経過する中で、一時的に入館者が減った時期があったが、歴代の郷土館の館長が色々な取り組みや工夫をした努力の成果があって、一定の来館者は望めているような状況である。今後この施設を維持していく中で、より一層社会教育施設として活性化する方法は無いのか、郷土館の現地視察も交えながら具体的な提言を頂戴したい。
- ・前回の会議で配布した抜粋資料には、「社会教育施設としての利活用」と「収益施設としての利活用」に関する提案が含まれている。
- ・川西市教育委員会としては、川西市郷土館を「社会教育施設」としての利活用を軸として進めて行くことを考えている。

事務局説明の後に次のとおり質疑応答がなされた。

委 員) あくまでも社会教育施設としての活用であって、自動販売機などの収益程度はかまわないが、主として業者を入れるわけではないということか

事務局) 業者を入れて古民家レストランなどで収益を得るなどではないということである。

委 員) 自販機を置く程度で収益施設と呼べるのか、収益施設としては考えていないということであるが、収益というのはどの程度の規模のことを指すのか。

事務局) 来館者数を増やすために飲食店を導入するなどの構想もあったが、原点に立ち返り、社会教育施設としてあそこで学んでいく気づきの場がたくさん有る所なので、そこを中心にやっていきたい。収益施設としてはどこまでという部分であるが、学びの場として川西市郷土館で半日過ごしていくなかで、例えば何か飲み物の自動販売機などを導入することの検討は必要かもしれない。

(2) 第1回社会教育委員の会での質問に対する回答

第1回社会教育委員の会で委員から質問いただいた以下の事項について、事務局から資料に基づき説明がなされた。

- ・運営経費（令和4年度歳入・歳出予算）について

- ・修繕費について
- ・学校・幼稚園・保育所の見学等による利用状況について
- ・各種ボランティアの活動状況について
- ・市民活動団体等との連携状況について

(3) 川西市郷土館を現地視察したことを踏まえて

令和4年8月18日(木)に川西市社会教育委員の会として川西市郷土館を現地視察したことを踏まえ、「施設」と「施設の周辺」とについて、各委員から意見や感想などが述べられた。

委員) 学校側では課外活動の際、半日及び1日の現地計画をどう組み立てるかというところで、川西市郷土館でそれだけの時間を過ごせないというところがあるかと思う。小学校の里山学習は4年生が実施しているが、一庫ダムや黒川地区、国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたるなどで体験活動を組み合わせて、バスを借りて1日活動として行っている。川西市郷土館は東谷や緑台など駅周辺の小学校が気軽に行かれている。また中学校では美術部関係が川西市郷土館を活用している。川西の郷土を勉強する単元が小学3年生にあるが、川西市郷土館はよく知られていない部分があるし、学習の深まりというところで、訪問前にしっかり事前に調べると半日の活動が組めるのかなというところである。

委員) 川西市の小学校も郷土学習をしっかりしていると思うが、市内の北から南まで色々なコンテンツがある中で、川西市郷土館は学校が利用するにあたり、どれくらい優先度が高いのか。

委員) 学校における優先度はあまり高くない。勾玉の講座や化石を石こうで作るなど、子どもは座学よりも体験授業の方が集中できる。出前授業やホームページで学習に使える資料的なものの掲載を充実していただいたら、それをきっかけに実際に見に行こうかという動きにつながる。

委員) 兵庫県立人と自然の博物館では移動博物館を実施している。実際に博物館の方へ校外学習に行ったり、博物館がトラックに色々な標本を積んで学校へ来て、体育館でミニ博物館みたいな催しが出来たりする。川西市郷土館についても館で所蔵している昔ながらの農業に関する器具などを積んで、巡回で学校施設に回ってきてもらえたら子どもたちももっと興味を持てるのかなと思う。

委員) 教育委員会としては川西市郷土館をあくまでも社会教育施設として考えるということであるが、短期的と長期的な考え方がある。短期的に活性化しようと思うと、川西市郷土館の周囲はこのような地区だという魅力のPRが無いといけない。現在の状況では川西市郷土館に足を運ぶという導入部分が弱いと思う。川西市郷土館には多田地区の色々な銅山としての一部機能があるから精錬所の跡がある。川西市郷土館のある地区はそれで栄えた町である。全国の鉱山で栄えた町には芝居小屋があるなど、娯楽も集めてその町を盛り上げていった。短期的では整備出来ないが、ビジョンとしては将来そういうことまでもう少し活性化していったら、その結論として川西市郷土館が栄え、学校教育にも役立てることが出来ると個人的に思った。

委員) 川西市史を見ても、東谷地区について言及されている部分があまりない。

委員) 歴史としてストーリーが欲しい。そのストーリーで学習コンテンツを準備して、そのコンテンツの中に川西市郷土館に関するものがあるというようなものが出来ればと思う。

委員) やはり最初は出前講座だと思う。例えば鉱脈を勉強している先生を呼んで、実際の鉱石を学校へ持って行き、子どもたちに触らせて、「実はこの鉱石はここから出たんだ」という話の

流れの中で川西市郷土館に案内する。ただ、その時に、今の展示説明は子どもたちには難しい。事例としては大阪歴史博物館の子どもたちのコーナーを見てもらえば参考になる。

委員) 現在の川西市郷土館は、一つは東谷地区を含めての歴史的な存在と、そうではなくてアートのものとしての施設利用の2本立てになっている気がする。どちらも推していくと川西市郷土館というものがピンと来ないと思い始めた。テレビで他市の〇〇アートセンターというような施設を見たことがあり、ひな祭りに関する何かも置いておられる感じで、川西市郷土館と似ていた。川西市郷土館という名称だから用途が広がらないというのもあるかと思う。施設名の変更というのはどうか。

事務局) 川西市郷土館は当初は旧平安邸だけであったが、次に旧平賀邸が小戸から移築されてきたり、ミュージゼレスポアールという美術館が出来たりしている。当初は川西市郷土館という名称で馴染みがあったのだろうが、今の現状ではわかりにくい状況になっている。施設の表現として何かもっとわかりやすくしていくというのは非常にありがたい提案と思っている。

委員) 歴史を含めた川西市郷土館の部分と、入館者を増やそうという時にアート施設としての利用が混在している感じがする。

委員) 新規顧客の開拓と、来続けてくれるリピーターの獲得と、議論は分けていくのが良いだろう。

委員) 宝塚ユネスコ協会は「わたしの町のたからもの」という絵画展を実施している。川西ユネスコ協会も同じ絵画展を実施していて、300点くらいの絵画作品が集まる。例えば絵画展の表彰式を川西市郷土館で実施するなど、目を向けてもらう、来てもらうことを考えたら良いのではないかと思った。

委員) 兵庫県立人と自然の博物館では、出前授業を実施しており、非常に効果があると実感している。出前授業で専門的な解説をし、次は実際に博物館への来館につなげている。ただ、この博物館は非常に専門職員が多いので、実施出来ていたところがある。専門職員、学芸員を新たに雇用するのは今回のケースは難しいと思うが、それに類するボランティアや非常勤職員をいかに育てていけるかということだと思う。出前授業の際の説明は必ずしも学芸員でないと出来ないということはない。アルバイトの方でも十分に興味を持ってもらえる話をする事が出来る。川西市郷土館に興味を持ってもらい、実際に来てもらい、現地でもっと専門的な話をさらにしていくということが出来ていければ良いかと思う。

委員) 小学校でもオンライン環境が整っており、専門員は施設に居て、リモート授業をするという形態が出てきている。

委員) 導入部分を考えていかないといけない。来館者が集まらなないと、次のステップが考えられないと思う。従来からの広報手段だけでなく、市役所以外の施設などでチラシなどをどのように置いてもらえるか。そういう協力いただける施設との連携、例えば大阪青山大学と連携協定を結んでいるので、それをもっと活用するべきだと思う。大阪青山大学は、学部も増えて専門の先生が来られているので、一度相談をしてみて積極的に働きかけてみるのも大事ではないかと思う。

(4) 第3回社会教育委員の会に向けて

事務局から次回の社会教育委員の会に向けて次のとおり案内がなされた。

事務局) 本日頂いた様々な意見を事務局で取りまとめて、委員の皆様と共有させていただきたいと思っている。その意見をもとに、他市の良い取り組み事例があれば、次回の社会教育委員の会に

おいてご紹介いただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

4. その他

事務局から次回の社会教育委員の会は当初は1月に開催予定であったが、日程調整したうえで改めて各委員へ案内をしたい旨の説明があり、これが了承された。